

問

行政サービス向上のためにITを活用していくことは、住民の満足度を高めることになり、行政と住民のより良い関係を構築していくことにも繋がる。

住民基本台帳ネットワークシステムが昨年8月に2次稼動してから1年が経過した。安全で便利な電子政府、電子自治体の構築に向けて、今後の住基カードの活用と安全対策について伺う。

① 本年8月末現在の住基カードの普及率と現況について。発行枚数を伸ばすための無料化措置と交付目標の設定について。

② 住基カードの普及を進めるためのPR活動等について。カードの安全性、信頼性を高める意味から、顔写真入りのカード交付に務めるべきではないか。

③ 住基カードに多目的公共サービスカードとしての役割を持たせた地域活用の方角性について。庁舎内の検討委員会等の実態は。

④ 視覚障害者に対する点字エンボスカードの発行計画は。

⑤ 操作職員のセキュリティ

住民基本台帳カードの活用と安全対策は

永井 繁樹 議員

町長

① 本町における住基カードの交付枚数は23枚、普及率0.09%である。

この住基カードを利用したサービスの活用方法が確立していないことから、全国的にも少ない発行枚数となっている現状にある。

なお、無料化にすることで住基カードを持つ人が増えることにはなるが、必要があつてカードを持つこと

が本質であり、いろいろな活用ができるようなカードにしていくことが、普及していくうえで大事である。

当面、無料化にする考えはなく、普及率の目標を持つことも難しい。

② 町の広報紙や役場、支所出張所でポスターやパンフレットにより周知しているが、さらに、公区長会議等の機会を通じ説明をしてい

くとともに、より良い方法があれば考えていきたい。

顔写真の付いたカードは6件ほど交付しているが、金額は変わらないので、身分証明書的に使うときには、希望により交付を受けたいだけだと思う。

③ 多目的利用については、住民のニーズ等を十分把握した中で、費用対効果等、総合的に判断し進めていく必要がある。なお、庁

については、機会があれば参加させたい。

個人のパソコン使用による情報漏洩対策は、廃棄しようとする際に、公用のものと同様にハード内の情報はすべて削除する。

④ 点字エンボスカードは、希望により発行できる。また、通信回線障害は、通信事業者の対応により速やかに復旧することが期待できることから行っていない。無停電電源装置はサーバー機器に本装置を設置し対応している。時間外についても同様である。

⑤ 住基ネットは、操作者識別カードとパスワードの確認ができないとアクセスできないことから、担当者以外の職員や外部の人は住基ネットを利用できない。指紋による認証方式については、管内や全道の状況を見ながら対応していきたい。

また、担当職員のセキュリティ研修会

自宅にいながら各種申請ができるようになる日も近い

⑥ 機器のノードダウン対策は、ハードディスク内にサーバー機器を2台設置することで、1台が故障しても対応できる。また、通信回線障害は、通信事業者の対応により速やかに復旧することが期待できることから行っていない。無停電電源装置はサーバー機器に本装置を設置し対応している。時間外についても同様である。

⑦ 住基カードはICチップが内蔵され、セキュリティ対策がなされており、カードの偽造、改ざん、攻撃といったことができないと考

えているが、偽造発見のため住基ネット専用ICカードリーダーについては、内部で調査したい。